

『明呪大妃大寒林經十萬註』における
2種の『大寒林陀羅尼』について

2020年12月19日(土)
東洋大学東洋学研究所オンライン研究発表例会

東洋大学東洋学研究所
客員研究員 園田沙弥佳

本研究はJSPS 科研費 JP19K12950 の助成を受けたものである。
This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number JP19K12950
(Grant-in-Aid for Young Scientists)

『**明呪大妃大寒林經十萬註**』とは
→五護陀羅尼に属する初期密
教經典の一つである
『**大寒林陀羅尼**』の注釈書

2種の『**大寒林陀羅尼**』とは
→経題と内容構成に相違があるが
『**大寒林陀羅尼**』と見なされる
2種の經典を指す

五護陀羅尼には2つの系統が存在する

サンスクリット系統 (梵蔵漢で内容が概ね共通する)

1. 『大随求陀羅尼』
2. 『守護大千国土經』
3. 『孔雀王呪經』

4. 『大寒林陀羅尼』

Tib.→『聖持大杖陀羅尼』(ŚV-A本)

Ārya mahādaṇḍa nāma dhāraṇī
('Phags pa be con chen po
shes bya ba'i gzungs)

5. 『大護明陀羅尼』

チベット語訳系統 (4と5はチベット語訳にのみ存在が確認される)

1. 『大随求陀羅尼』
2. 『守護大千国土經』
3. 『孔雀王呪經』

4. 『大寒林陀羅尼』

Tib.→『大寒林經』(ŚV-B本)

Mahāśītavana sutra
(bSil ba'i tshal chen po'i
mdo)

5. 『大護明陀羅尼』

『大寒林陀羅尼』は五護陀羅尼の系統を大別するうえで重要な經典

系統別『大寒林陀羅尼』

サンスクリット系統

◆SV-A本（『聖持大杖陀羅尼』）

ラーフラが登場

→寒林で様々な障りに苦しめられていたラーフラに対して世尊が「大寒林陀羅尼」を授ける。

チベット語訳系統

◆SV-B本（『大寒林経』）

四天王が登場

→世尊が四天王の陀羅尼より優れた「大寒林陀羅尼」を授ける場面が説かれている。
※ラーフラの名は直接登場しない。

経題と内容に相違はあるが、
両者は『大寒林陀羅尼』と見なされている

『明呪大妃大寒林經十萬註』の特色①

⇒チベット大蔵經において別個に収録される**ŚV-A本**と**ŚV-B本**が、一つの注釈書に含まれている

可能性① 当時ŚVと見なされていた**ŚV-A本**と**ŚV-B本**を注釈者が意図的に合体させて注釈を行った

可能性② **ŚV-A本**と**ŚV-B本**の内容が元々一つとなっているテキストを注釈者が使用した
(第3のŚVが存在していた可能性を含む)

『明呪大妃大寒林經十萬註』の特色②

陀羅尼呪

⇒2回に分けて説かれる陀羅尼呪に相違があり、様々な系統の内容が展開したことがうかがえる

ŚV-A本の経題に含まれる`daṇḍa'の意味

⇒先行研究で指摘されている「歡喜」や「杖」以外にも、注釈で説かれるダンダカ国やダンダ王の名、ダンダーラニヤカという森の名に関係する可能性

- * 特にダンダーラニヤカは『ラーマーヤナ』に登場する主要な場所。
『ヴァーマナ・プラーナ』には邪悪な王ダンダの話が説かれる。
ŚV-A本の成立の際、ヒンドゥー教の影響を受けたことが推察される